



# Yokohama Yomiuri ヨコハマよみうり

■発行／横浜読売会  
■発行日／毎月5日  
■発行部数／40万部  
■発行エリア／横浜市内全域  
■制作／ヨコハマよみうり編集部  
〒231-0023  
横浜市中区山下町51-1  
読売横浜ビル8F  
<http://yokohama-yomiuri.co.jp>

音楽 落語 演劇・舞台

チケットのお求めは7面へ

限定特価、先行発売、お見逃しなく!

10月、真打昇進を控える講談師宝井琴柑さん。

可愛らしい容姿とは裏腹に、真実を探り、迫力のある講談で観客を魅了する。

講談を次世代につなぐ活動にも精を注ぐ琴柑さんの魅力に迫る。

※講談…「落語」が会話によって成り立つ芸であるのに対し、「講談」は話を読む芸。張り扇で釈台をパパンと叩き調子良く語る。この小道具を巧みに使った芸こそ「講談」ならではのもの

## 講談に親しむ

物心ついた時から身近に講談があり、講談のおじちゃんがありました。両親と私の師匠の宝井琴星は古くからの友人。講談が何かはわからないのですが、講談のおじちゃん

は知っていたという感じです。「おもしろいな」と思って講談を習い始めたのは中学生の時です。作文で褒められたこともあって、言葉で表現することに興味がありました。それで朗読教室に通おうと思ったのですが「子どもは見たことがない」と断られ、親に「講談教室に行ってみたら」と。年齢に関係なく門戸を開いてくれていました。生徒はほとんど高齢者で中学生は私一人。ほかのことにも興味のある年頃でしたので、教室に時々顔を出し、たまに発表会に出て、という程度に親しんでいました。

## 自分の殻を破り、講談師へ

大学時代は山形県で過ごしました。きっかけは高校生の時の農業体験です。港南区の住宅街で育った私には、農業が新鮮に映ったんですね。しかも山形がすごくいいところで、迷わず山形の大学を受験しました。

作家や編集者など「書く職業」に就きたかったので、大学卒業後は農業系の出版社に就職しました。初めは営業で、「うちの雑誌を定期購読してください」と農家まわりの毎日。「軽トラ発見!」と村々をまわって(笑)。田んぼや畑に軽トラがあれば、近くに農家さんがいるんですよ。で、契約を取るためにとにかくしゃべる。編集部に行ける保証もなく「先が見えないなあ」と行き詰まった時に、ふと昔習っていた講談を思い出し、講談師の門を叩きました。

たった8カ月でしたが、過酷な営業マンをやってみて、多少世間を知ることができまし

たし、しゃべることに抵抗がなくなりました。その経験が今、大いに生きています。

## 講釈師、見てきた上で嘘をつき

昔から講談師は「講釈師見てきたような嘘をつき」と、嘘つきの烙印を押されていました。例えば、塚原卜伝と宮本武蔵は違う時代を生きていたはずなのに、講談の世界では対決してしまう。歴史上の人物を脚色して、事実を針小棒大に語るのです。ところが今は亡き大師匠の宝井馬琴は「講釈師、見てきた上で嘘をつき」と常々洒落を申しておりました。

大師匠は「真実を知り、理解した上で、敢えて物語としての嘘を楽しく語る」「知らないで語るのと知って語るのでは、話のリアリティ、重みが全く違う」と。仕事で地方を訪れたら、講談に関わる史跡を見て歩くことを教わりました。その教えを大切にしています。

大衆話芸は変化し続ける「なまもの」。説得力のある話をするにはたくさんの経験を積み、さまざまな状況への対応力がないといけません。お客さまのほうがよく人生経験豊富ですから、知識が浅いと見透かされてしまいます。「今日はどう出てくるんだ」と様子をうかがうお客さまがいると「負けるもんか!」と日々戦いです(笑)。うまくこちらに引き込めた時は嬉しいですし、お客さまの満足度も高くなります。そういう回数を増やしていきたい。それにはとにかくいろいろな人と触れ合って、見聞して、芸の肥しにする。人としても成長し続けることが大事だと思っています。

## 五代目琴鶴として

入門して13年半が経ちました。二ツ目という位ですが、10月に真打に昇進します。真打になるには100~200のレパトリーが



講談師  
宝井 琴柑さん  
kinkan takarai

横浜市港南区生まれ。中学生の頃より宝井講談修羅場塾にて講談に触れる。平成18年4月、宝井琴星(きんせい)に入門。22年6月、二ツ目に昇進。演目は古典講談から新作講談まで幅広い。30年『おやかで楽しむ講談入門』を上梓。現在、講談に馴染みのない世代に向けて、子ども講談教室や体験授業に力を入れる。令和元年10月14日、真打に昇進し五代目宝井琴鶴(きんかく)を襲名予定。

必要と師匠に言われていますが、今150くらいでしょうか。宝井一門は軍談を得意としていて、一番好きな演目は『三方ヶ原軍記』という、家康と信玄が合戦して家康が負ける物語。講談の基礎で、口調や、声と調子を鍛える訓練をする演目です。古典講談、新作講談といろいろな演目をやりますが、基本に立ち返ろうと思う時は必ず『三方ヶ原軍記』を選びます。また、最近、評判がいいのは『エルトゥールル号の遭難』です。エルトゥールル号の遭難事故の話を中心に、師匠が創作し、私が現地和歌山で取材をしてきたという演目です。

これから少しずつですが、神奈川をテーマに講談も披露していきたい。三浦半島には『和田合戦』で有名な和田義盛など三浦氏の話があり、箱根や小田原は『曾我物語』のメイン舞台です。鎌倉も歴史の宝庫です

し、横浜には『横浜のへボン博士』という自作の講談があるように、海外との交流も講談にすることができます。話したい演目は無限に広がります。

また、未来のお客さまをつくるため、子ども講談教室にも力を入れていきたい。小学校で体験授業をやると「張り扇を叩いてみたい」とか「みんなの前で披露したい」とか、結構盛り上がるんですよ。親子講談教室では、ご家族で講談を楽しまれたり。少しずつですが、講談人口が増えています。

まもなく五代目琴鶴を襲名します。自分の色をしっかりと出して「これが琴鶴講談だね」と言われるよう、足場を固めていきたいと思っています。琴柑改め琴鶴独演会は、地元横浜にぎわい座で年2回ほど開催予定です。どうぞご最良いただけたら嬉しいです。

撮影協力:お江戸日本橋亭

ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルで味わう  
イタリアンランチブッフェ 平日ランチ限定

**TWO plus ONE**  
トゥー・プラス・ワン

3名様以上のご利用で1名様分が無料に!

10月7日(金)~12月20日(金) 月曜~金曜 13時30分~ ※90分制

みなとみらいのベイフロントに建つ同ホテル2Fのイタリア料理「ラ ヴェラ」。季節の食材を使った本格イタリアンをカジュアルに楽しめる人気のランチブッフェが、3名様以上のグループで利用すると1名様分が無料になる「TWO plus ONE」を実施! 12月中旬までの期間限定企画、この機会をぜひお見逃しなく!

3名様以上のご利用で、3名様ごとに1名様分を無料に

大きな窓から、大観覧車やベイブリッジなどパノラミックな眺望を楽しめます

料金 通常 大人3,600円(5~12歳 1,550円) →3名様利用の場合、1名様あたり2,412円(最大33%OFF)  
※料金は税金・サービス料込み ※他の割引やクーポンとの併用不可 ※大人料金のみ対象

「ヨコハマよみうりを見て」  
と前日までにご予約ください

INTERCONTINENTAL  
YOKOHAMA GRAND

ご予約・お問い合わせ  
☎045(223)2267  
(レストラン予約)9:00~20:00  
横浜西区みなとみらい1-1-1  
みなとみらい線みなとみらい駅より徒歩約5分  
[www.interconti.co.jp/yokohama/](http://www.interconti.co.jp/yokohama/)